大きな一歩

堀井　清菜

別府大学短期大学部を卒業し、目標だった図書館司書として勤務してもうすぐ一年が経つ。自分が司書を目指すきっかけになった日出町立萬里図書館で働いているのかと思うと、まるで夢でも見ているようで毎日が楽しくてしょうがない。

私の主な業務は、古書の目録作成と整理である。萬里図書館は、明治 43 年に当時の有志により帆足紀念文庫として創設されてから、昭和３年に帆足記念図書館、昭和２５年に日出町立萬里図書館と変遷を辿っている。その後、昭和４０年代に日出町内在住の大塚氏から明治・大正期の資料を寄贈して頂いた。これらの帆足紀念文庫・帆足記念図書館・大塚文庫の資料が電算化への移行時に
データ作成できず、そのまま書庫に保管されている状態であった。

これらを古書整理表に書き込み、NDL-OPAC や NDL サーチ、大分県立図書館の蔵書検索等で同書誌が無いか検索する。そして、まとめた古書整理表のデータをエクセルにひたすら打ち込んで目録を作っていく。前任者が試行錯誤しながらマニュアルを作ってくれていたおかげで、スムーズに作業することが出来た。しかし、やはり慣れない作業かつ古書の知識が貧弱なせいで、一日に 5 冊も進まない日が続いた。その度にインターネットや辞書で調べ、何とか知識を身につけていった。その努力の結果、半年経った頃には一日平均１５冊を超える月が多かった。今現在は約３１００冊を入力し終えている。あと、４０冊程残っているが、一度引き受けた仕事は最後まで全うしたいので２月中には終わらせ、残りの時間は細かな調整に当てたいと考えている。

↑古書整理表（左写真）に書き込んだら、本に挟みこみ２F 児童書庫の空き書架に右写真のように分類順に排架していく。

もちろん、この古書整理以外にもカウンター業務やフロアワーク等幅広く関わり、町内の幼稚園への出張読み聞かせも何度か経験した。授業で学んだことも役に立ったが、やはり現場で体を使いながら学ぶことも山のようにある。勤め始めた当初は気持ちが空回りして、同じ失敗ばかりを繰り返し落ち込む日々だった。しかし、周りの先輩方がいつも丁寧に仕事を教えてくださったので、失敗をバネにして向上心を持ち続けることが出来た。レファレンスにしても、ただ言われた通りの資料を提供するだけではなく、会話することによってその資料を求める理由や背景が分かり、よりその利用者に合った情報をお渡しすることで信頼関係が築かれていくことを実感した。

萬里図書館で働いていると常に何かが刺激となって、ハッと気づかされることが多い。知らないことが多すぎて自分の視野がいかに狭いかと感じることも多い。これから司書として成長していく上で大きな一歩となる経験を積めたことをとても幸運に思う。

（ほりい・さやな　日出町立萬里図書館）